

★★
BALANCE
SHEET

(知識ゼロからの)

★★
A STATEMENT
OF PROFIT
AND LOSS

An Introduction of Reading Accounting Books for Beginners

決算書 の読み方

An Introduction of Reading Accounting
Books for Beginners Kenshi Hirokane

千代田パートナーズ会計事務所監修

弘兼憲史



●売上原価

●流動負債

●資本金剰余金

●経常利益

●営業外収益
●営業外費用

●固定資産

●流動資産

●売上高

知識ゼロからの決算書の読み方弘兼憲史

幻冬舎

★★
BALANCE
SHEET

(知識ゼロからの)

★★
A STATEMENT
OF PROFIT
AND LOSS

An Introduction of Reading Accounting Books for Beginners

決算書 の読み方

An Introduction of Reading Accounting
Books for Beginners Kenshi Hirokane



常州大学
藏书

弘兼憲史

千代田パートナーズ会計事務所監修

幻冬舎

弘兼憲史（ひろかね けんし）

1947年山口県生まれ。早稲田大学法学部卒。松下電器産業販売助成部に勤務。退社後、76年漫画家デビュー。以後、人間や社会を鋭く描く作品で、多くのファンを魅了し続けている。小学館漫画賞、講談社漫画賞の両賞を受賞。家庭では二児の父、奥様は同業の柴門ふみさん。代表作に『課長 島耕作』『部長 島耕作』『加治隆介の議』『ラストニュース』『黄昏流星群』ほか多数。『知識ゼロからのワイン入門』『さらに極めるフランスワイン入門』『知識ゼロからのカクテル&バー入門』『知識ゼロからのビジネスマナー入門』（幻冬舎）などの著書もある。

装幀 亀海昌次

装画 弘兼憲史

本文漫画 『ヤング 島耕作』『課長 島耕作』『部長 島耕作』

『取締役 島耕作』（講談社）

本文イラスト 押切令子

本文デザイン バラストジオ（高橋秀明）

校正 寺尾徳子

編集協力 西 一

オフィス201（新保寛子 田中庸一）

編集 福島広司 鈴木恵美（幻冬舎）

知識ゼロからの決算書の読み方

2004年3月10日 第1刷発行

2011年1月25日 第18刷発行

著 者 弘兼憲史

発行人 見城 徹

編集人 福島広司

発行所 株式会社 幻冬舎

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-9-7

電話 03-5411-6211（編集） 03-5411-6222（営業）

振替 00120-8-767643

印刷・製本所 株式会社 光邦



検印廃止

万一、落丁乱丁のある場合は送料当社負担でお取替致します。小社宛にお送り下さい。
本書の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。
定価はカバーに表示してあります。

©KENSHI HIROKANE, GENTOSHA 2004

ISBN4-344-90055-3 C2033

Printed in Japan

幻冬舎ホームページアドレス <http://www.gentosha.co.jp/>

この本に関するご意見・ご感想をメールでお寄せいただく場合は、comment@gentosha.co.jpまで。

第1章

決算書から何を読む？

会社の真実の姿は決算書から見えてくる……………9

決算書とは1 決算書とは会社の経営状態がわかる成績表……………10

決算書とは2 どのような書類を、誰のために作るのか……………12

決算書とは3 決算書が作られる時点と期間の基本ルールを知る……………14

貸借対照表 会社の底力は「財産」で決まる……………16

損益計算書 会社の勢いは「儲け」で決まる……………18

キャッシュ・フロー計算書 会社が本当にもっているお金が見える……………20

第2章

貸借対照表

会社の底力は「財産」で決まる……………23

貸借対照表 小分けして読むことが理解への早道……………24



資産の部	貸借対照表の左側、借方に表されるのが資産……………	26
負債の部・純資産の部	貸借対照表の右側、貸方に表されるのが負債と純資産……………	28
流動資産	「流動」とはもつすぐお金になるという意味……………	30
たな卸資産・その他流動資産	在庫も家賃の前払いも大切な資産と考える……………	32
POINT 1	たな卸資産の扱い……………	34
固定資産	三つをまとめ、償却できるか否かを見る……………	36
POINT 2	減価償却の算定の仕方……………	38
有形固定資産	読んで字のごとく、目に見える形のある資産……………	40
無形固定資産・投資等その他の資産	目に見えない資産とハイリスクな資産……………	42
POINT 3	有価証券の区分は目的による……………	44
繰延資産	価値がないのに資産とされる繰延資産……………	46
貸倒引当金	資産のなかで唯マイナス項目となる貸倒引当金……………	48
流動負債	会社の運転資金がわかる流動負債……………	50
固定負債	大きな買い物に使う固定負債……………	52
POINT 4	多額の支払いに備える引当金……………	56

第3章

損益計算書

会社の勢いは「儲け」で決まる……………65

資本金・剰余金 株主のお金、自分で稼いだお金が資本を担う……………58

資本準備金・利益準備金 会社法に定められた、万が一に備える「準備金」……………60

POINT5 黒字と赤字で表記が違う……………62

損益計算書の構造 まず「いつもの儲け」と「特別な儲け」に分ける……………66

損益計算書 損益計算書を攻略する3・5・5の分類……………68

売上高 本業で稼いだお金を最初に見る……………70

売上原価 仕入れにかかるお金、モノ作りにかかるお金……………72

売上総利益 商品、製品の魅力が売上総利益に表れる……………74

販売費及び一般管理費 売るため、管理するためにかかる費用……………76

POINT6 人件費と接待交際費……………78

営業利益 本業での活動で得た儲けをまとめた営業利益……………80



第4章

キャッシュ・フロー計算書

会社が本当にもっているお金が見える

97

キャッシュ・フローとは 近年重要性が増している現金の流れを追った計算書……………98

キャッシュ・フローの構造 キャッシュ・フロー計算書は大きく見て三層構造……………100

営業活動によるキャッシュ・フロー 最も注目すべきは本業による現金の流れ……………102

営業活動によるキャッシュ・フロー 「間接法」と「直接法」、二つの方法から求められる……………104

投資活動によるキャッシュ・フロー 投資の内容で会社の将来を予測する……………106

営業外収益・営業外費用 会社は本業以外でも儲けたり、損したり……………82

経常利益 最も重要視されているといっても過言ではない利益……………84

特別利益・特別損失 アンビリーバブルな出来事は利益か損失か？……………86

法人税、住民税及び事業税 税金を差し引いてたどりつく当期純利益……………88

★株主資本等変動計算書 純資産が前期末から当期末までにどう変わったかがわかる……………92

★注記表 注記が充実している会社は信用できる……………94

94

POINT7 余力があつてこそできる設備投資……………108

財務活動によるキャッシュ・フロー 「負債」と「資本」の流れで資金繰りがわかる……………110

フリーキャッシュ・フロー 会社の価値を決める、「自由に使えるお金」……………112

キャッシュ・フローの見方 キャッシュ・フロー計算書は粉飾しにくい構造……………114

キャッシュ・フロー計算書の見方 プラスとマイナスの数字の意味を読み取る……………116

第5章 知識3からの経営分析 決算書を十二分に活用する……………119

分析のポイント 五つの分析ポイント、三つの視点……………120

総資本経常利益率・自己資本利益率 二つの経営指標から会社の総合力をはかる……………122

収益性分析 商売上手は収益性でわかる……………126

売上高総利益率・売上高営業利益率 本業にかかわる収益性を分析する……………128

売上高経常利益率 収益性分析の核となる比率、売上高経常利益率……………130

効率性分析 よく回転している会社がよい会社……………132



総資本回転率・回転期間	少ない総資本でも、多くの売上高を上げることが大切	134
たな卸資産回転率・回転期間	適正在庫を保つことが、効率性のよさにつながる	136
固定資産回転率・回転期間	高額な投資をしたからには効率よく動かす	138
売上債権回転率・回転期間	取引先への売上債権は、回収後すぐに活動資金になる	140
仕入債務回転率・回転期間	返済予定の仕入債務はできるだけ遅く支払う方がよい	142
安全性分析	貸借対照表をもとに、会社の安全性をチェック	144
流動比率・当座比率	支払能力のよしあしをはかる流動比率と当座比率	146
固定比率・固定長期適合率	大きな買い物は自分のお金でしているか	148
自己資本比率	資本の充実こそ、安全性の最大の課題	150
生産性分析	従業員や設備がどれだけの付加価値を生んでいるか	152
労働生産性	従業員一人ひとりが生む価値とは？	154
労働分配率	生産性向上のために人件費をさらにくわしく分析する	158
損益分岐点分析	誰もが気になる、売上高と費用が釣り合う点	162
損益分岐点売上高の求め方	会社の具体的な目標は、費用の分解から見えてくる	164
経営安全率・損益分岐点比率	損益分岐点から会社の余裕を見る	166

第6章

連結決算書

グループ会社をひとまとめ……………171

連結決算書 企業をグループでとらえ、まとめて成績を見る……………172

子会社、関連会社の定義 子会社は「支配」され、関連会社は「影響」を受ける……………174

連結貸借対照表 企業グループの財政状態を表す連結貸借対照表……………176

連結損益計算書・連結株主資本等変動計算書 企業グループの儲けを表す連結損益計算書……………178

連結キャッシュ・フロー計算書 企業グループの資金状況を表す連結キャッシュ・フロー計算書……………180

あとがき……………182

参考文献……………185

さくいん……………190

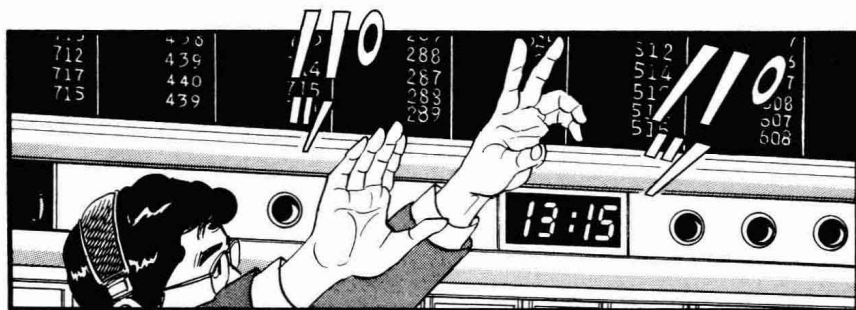


第1章

決算書から何を読む？

会社の真実の姿は 決算書から 見えてくる

先行きの見えない経済状況のなかで、生き抜くためには、一人ひとりが自分で決断し、実行する心構えをもたなければならない。そのためのツールとして、決算書を読めることは、必ず役に立つ。





決算書とは会社の経営状態がわかる成績表

3つの計算書をおさえよう

会社の「財産」「儲け」「キャッシュ」を読み解くカギが、それぞれの決算書に記されている。決算書に挙げられている専門用語と数字の意味を知る必要がある。



会社は利益を上げるため、日々活動している。その成果を集計した「会社の成績表」ともいえるのが決算書である。

学校の成績表との違いは、成績のよしあしの判断を、我々が決めることにある。決算書を作った人ではなく、見る人が判断するのだ。仕事をするうえで、自分の会社や取引先の経営状態がどうなのか、誰しも気になるところだろう。また、取引を始めるかどうか判断するとき、決算書は必ず役に立つ。

ひと口に決算書といっても実は、一つの書類ではなく、いくつかの書類から構成されている。

なかでも重要なのは、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の三つである。

決算書から何を読み取る？

1. 会社は儲かっているか

自社の経営状態を見る。また、取引先がどれくらい儲けたか、どうやって儲けたかを見ることで、ビジネスの可能性をさぐる。

2. 会社は倒産しないか

このご時世ゆえ、儲けがすべて借金の返済に消えていないか要確認。大量の不良債権を抱えていては倒産してしまうからだ。

3. 今後伸びる会社か

過去の決算書と比較することにより、業績の伸び、将来性がわかる。自社の軌道修正や取引先として適切かの判断に、この視点は欠かせない。



キャッシュ

キャッシュ・フロー計算書

ある期間の、会社の現金の流れを表す決算書。古くから決算書の2本柱だった貸借対照表と損益計算書に加えて、近年重要視されている。「財産」「儲け」では見えてこない現金の流れがわかる。

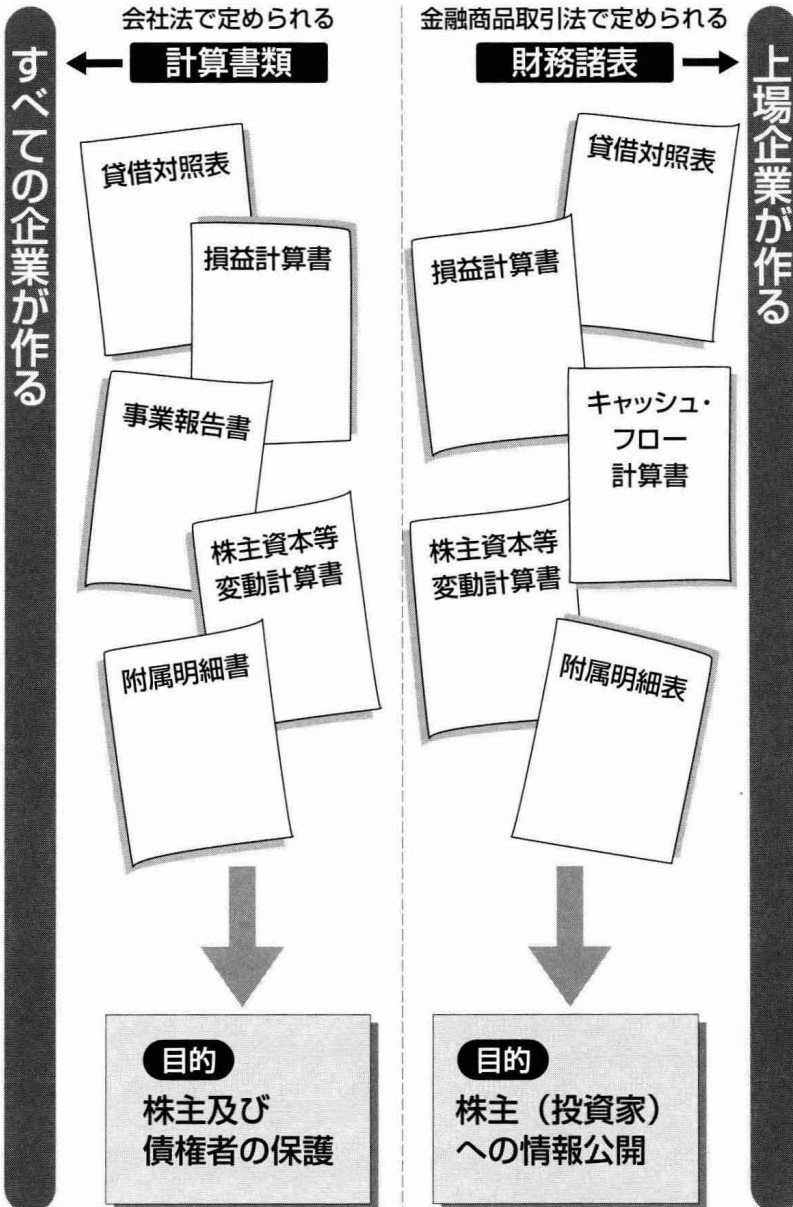
決算書は会社の勢いを表してもいる。内容のいい決算書は、何よりの宣伝になる場合もある。

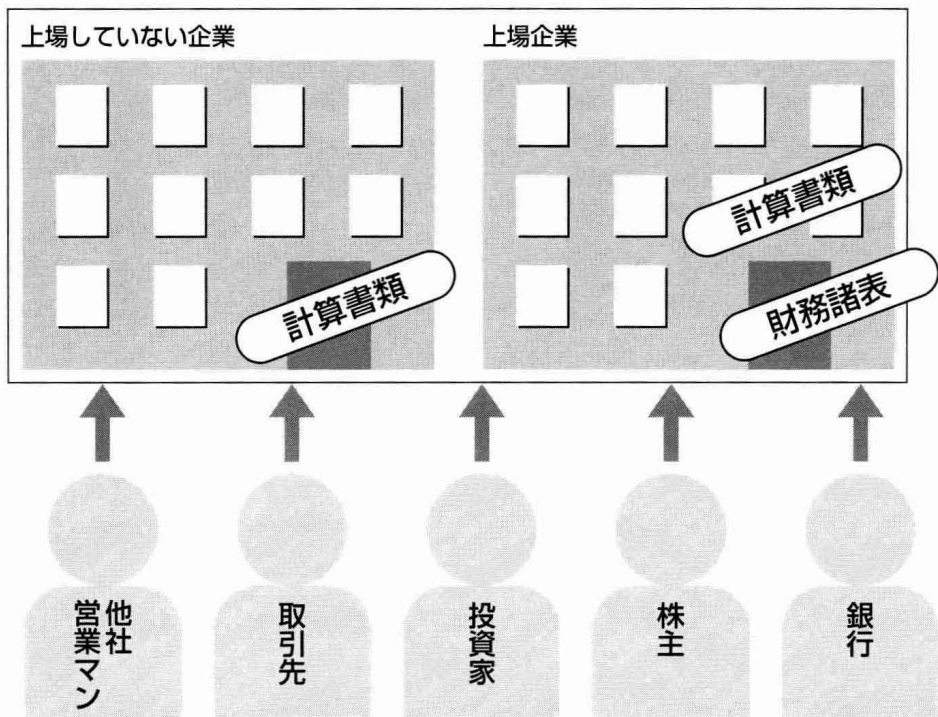


どのような書類を、誰のために作るのか

決算書

決算書というのは通称。正式名称は会社法では「計算書類」、金融商品取引法では「財務諸表」という。定められた法律によって呼び名が違う。





決算書は株式会社の場合、会社の経理部が作り、株主など、会社と利害関係のある人たちが見る。

公告の義務

会社法により、すべての株式会社は決算書を世間に広く知らせる義務がある。これを公告の義務という。

日本では、「会社法」「金融商品取引法」という二つの法律にもとづいて、すべての会社が必ず決算書を作るよう義務付けられている。実は、決算書という呼び方は通称で、正式には会社法では「計算書類」、金融商品取引法では「財務諸表」と呼ぶ。「現金及び預金」や「売掛金」といった決算書を形成する用語（これを会計用語で勘定科目という）に若干違いがあったりするが、それ以上に大きな違いは、債権者保護か投資家への情報公開かという作成目的にある。

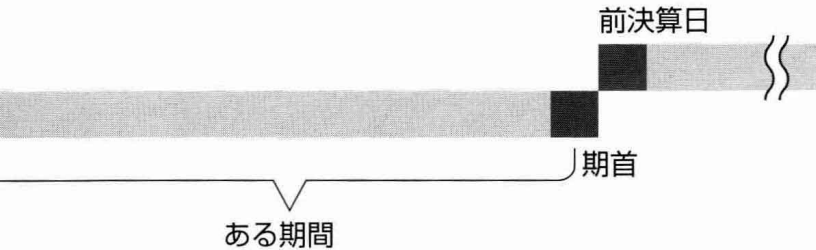
また、決算書は会社が自由に作成しているのではなく、会計基準というルールに沿って作成している。そのため、ほかの会社の決算書とも比較できるのだ。



決算書が作られる時点と期間の 基本ルールを知る

3月末決算の会社が多い

自由に決められる会計期間ではあるが、学校同様、4月1日から3月31日に設定している会社が多い。ここにも、決算書が会社の成績表と呼ばれる所以がありそうだ。



損益計算書

会社のある期間の
「儲け」を表す

キャッシュ・ フロー計算書

会社のある期間の「キャ
ッシュ」の流れを表す

決算書は一年に一度は作らなくてはならない。一年以内であれば会社は期間を自由に設定でき、何度作ってもよい。多くの企業は、四月一日～三月三十一日までの期間に区切り、決算書を作っている。

この期間を会計期間といい、期間の最初の日を期首、最後の日を期末、決算日という。

決算書は会社自らが作るものだが、できたらすぐに発表してよいというものではない。会社の監査役や取締役の承認を得、最終的には、その会社の株をもっている株主に承認してもらう必要があるのだ。そのために株主総会を開く。

株主総会は決算日より三カ月以内に開くことが法律によって義務付けられている。